



東北大学



平成 23 年 8 月 10 日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学金属材料研究所

材料科学国際週間 2011 (Material Science Week 2011) の開催

－材料科学の灯火を東北にかかげて－

東北大学金属材料研究所（所長：新家光雄）は、東北地域の復興に貢献するため、

(1) 世界の材料科学コミュニティへ東北から情報を発信する

(2) 東北に世界の材料科学分野の情報と人材を集積し、国際共同研究を推進する

(3) 国内及び海外からの材料科学研究者の仙台訪問により、東北地方の現状を正しく理解して貰う

の 3 つを目的に掲げ、「材料科学国際週間 2011 (Material Science Week 2011)」を次の期間、開催致します。

【実施期間】平成 23 年 10 月 11 日（火）～平成 23 年 12 月 10 日（土）

【場 所】東北大学金属材料研究所ほか（宮城県仙台市全域）

具体的には、この期間に合わせて、関連分野の国内・国際会議（別紙 1 参照）を誘致し、東北・仙台に全世界から多くの研究者に足を運んで頂き、東北地方における材料科学分野の研究機能を強化するのは勿論の事、これらの訪問者の実体験を通じて、東北・仙台に大震災以後も絶え間なく光り続ける「材料科学の灯火」の存在を、全世界にアピールすることを通じて、東北の復興を示し、この地域を元気づける事に貢献します。

より詳しい趣旨については、別紙 2 をご覧下さい。

詳細については、下記にお問い合わせください。

東北大学金属材料研究所 庶務係

Tel: 022-215-2181 Fax: 022-215-2184 e-mail: imr-som@imr.tohoku.ac.jp

材料科学国際週間事務局 教授 野尻浩之、教授 山田和芳

Tel: 022-215-2015 Fax: 022-215-2016 e-mail: nojiri@imr.tohoku.ac.jp

Tel: 022-215-2035 Fax: 022-215-2036 e-mail: kyamada@imr.tohoku.ac.jp

材料科学国際週間 2011 期間中の国内・国際会議、イベント一覧

①10月11日(火) 材料科学国際宣言 2011 調印式

【概要】

金属材料研究所と交流協定をもつ 18 ヶ国の大学・研究機関の代表者が、材料科学国際宣言 2011 を調印します。その内容としては、(1)エネルギー、環境保全、安全、情報・通信、社会基盤、医療など、多様な人類の重要課題の解決 (2) 材料科学の共通の課題の解決へ国際的な協力関係を強化し、研究活動を加速、(3)市民や社会との交流を深め、材料科学の成果が社会の理解と支援のもとに還元されるように社会に情報を公開、の 3 つからなっており、国際的な材料科学研究分野の共同研究の推進が期待されます。

②11月1日-2日、金研ワークショップ「電子自由度による強誘電体最前線」、70名参加予定

③11月16日-17日、電子スピンスイエンズと技術の最新動向、200名参加予定

④11月19日-20日、第5回物性科学領域横断研究会「凝縮系科学の最前線」、100名参加予定

⑤11月24日(木)-25日(金)、第122回東北大学金属材料研究所講演会、200名参加予定

【概要】

外部からの特別講師と、所内の研究者の研究報告、若手のポスター発表などからなる金属材料研究所の代表的行事。既に、60年以上に渡り120回を超えるその講演は、時々の学術や社会的な背景を踏まえて、材料科学の現在と未来を語る場として、確固たる伝統として確立しています。今回は、特別講師として、影絵劇団かかし座をひきいる後藤圭氏が「芸術家からみた科学および科学技術への願い」という内容でご講演されます。

＜劇団かかし座について＞

劇団かかし座は、日本で最初にできた影絵の専門劇団です。影絵の世界は人々の心を無限の想像へ駆り立てる、ふしぎな性質と魅力をもっています。この性質と魅力をもって「たくさんの人々の心に夢を育てたい」という思いで創立以来 50 年にわたり、かかし座独自の手法で独特な影絵を、TV、映画、舞台、出版などを通じて提供し続けてきています。常に手作りを基本に、TV やマスコミの流れに荒らされることの無い繊細なデザインと柔らかい色調という真の美術を保ち続けていることが知られています。

⑥11月25日(金)、金属材料研究所復興祭、500名参加予定

【概要】

95 年の伝統を誇る「世界の金研」の研究者、学生、職員、留学生、外国人客員研究者、OB が一同に集い、震災とそこからの復興の軌跡を振り返り、これからの金属材料研究所の果たすべき挑戦にむけて語り合う交流の夕べです。

- ⑦11 月（予定）、第 37 回日本磁気学会スピントロニクス研究会・2011 年応用物理学会スピントロニクス研究会「スピントロニクスと熱効果」、50 名参加予定
- ⑧11 月（予定）、アジアオセアニア中性子学会サテライト会議、60 名参加予定
- ⑨12 月 1 日-2 日、GCOE プログラム” Material Integration” 国際シンポジウム、200 名参加予定
- ⑩12 月 1 日-2 日、第 8 回材料科学若手学校、100 名参加予定
- ⑪12 月 9 日、軽金属学会 60 周年記念東北支部講演会、60 名参加予定

⑫12 月 10 日（土）、市民講座-材料科学が拓く東北の未来、150 名参加予定

【概要】

材料科学研究の国際的な拠点として知られている東北大学金属材料研究所、材料科学研究の現状とその可能性を、新家所長自らが直接市民に語りかけるイベントです。材料科学が市民の生活とどのように関わっているか、人類社会が解決しなければならない様々な課題に材料科学はどのように取り組んでいるのか、材料科学研究者の素顔などを平易に熱く語りかけます。併せて、普段はなかなか目にする事が出来ない最新の研究施設見学や、本多光太郎記念の品々の見学や展示など、金属材料研究所の過去、現在、未来を体験するイベントも企画しています。

- ⑬12 月 12 日-13 日、金研ワークショップ「素材製造プロセスおよび新素材開発の迅速化・高度化に資する分析・解析技術」、100 名参加予定
- ⑭12 月（予定）、金研ワークショップ「第 6 回窒化物半導体の高品質結晶とその素子応用」、50 名参加予定
- ⑮12 月（予定）、金研低炭素社会基盤材料融合研究センターワークショップ、50 名参加予定

※1. 8 月 10 日現在、15 イベント 約 1,900 名参加予定です。

※2. ①と⑥を除く全てのイベントは公開です（参加費が必要なものもあり）。

一般の市民向けのイベントは⑤と⑫、その他は専門家向けの会合となります。

「材料科学国際週間 2011(Material Science Week 2011)」開催

-材料科学の灯火を東北にかかげて-

東北大学金属材料研究所

開 催 趣 旨 書

東北大学金属材料研究所は、材料科学分野における世界的な研究の中心として震災からの早期復旧に努力してきました。現在、その基本的な研究機能は以前の水準にまで復旧を遂げ、被災された研究者に支援を提供する活動も進めています。さらに、震災でもたらされたエネルギー問題をはじめとしたさまざまな課題解決に向け、その根底を支える材料科学からの貢献を果たすべく、新たな挑戦をはじめています。

このような活動に対し、諸外国から多くの支援や理解が大きな力となってきました。その一方で、こうした東北大学の現状が十分に理解されず、研究機能が停止したままであると誤解を受けたり、震災と関連した事故への対応等への印象から、東北で計画されていた国際会議等のイベントが中止になったり、あるいは研究交流の訪問者のキャンセルなど、研究分野における風評被害と云ってよい現象が一部にあるのも事実です。

こうした現状を踏まえて、金属材料研究所は、震災発生から7ヶ月後の10月11日から2ヶ月間を材料科学国際週間:Material Science Week 2011として設定し、材料科学に関連するさまざまな講演会や研究会を誘致、開催することにしました。その目的は、**(1)材料科学コミュニティへの東北からの情報発信、(2)東北への材料科学分野の情報と人材の集積、(3)内外からの研究者の訪問により東北の現状への正確な理解を得る**、の3つです。具体的には、この期間に合わせて、関連分野の国内・国際会議を誘致し、東北に内外から多くの研究者に足を運んでもらうことを通して、材料科学分野における研究機能を強化し、復興に貢献することを目指します。また、**市民講座などを開催し、材料科学分野への社会の期待と要望を研究者と市民が共有できる取り組みを行います**。この材料科学国際週間は、仙台光のページェントの開始と入れ替わりにその幕を閉じる予定です。この期間に、多くの訪問者を受け入れることで、東北の現状が正しく世界に伝えられ、**東北と世界が強く繋る契機となる**ことが期待されます。

東北大学金属材料研究所は、Material Science Week 2011の開催を通して、**被災地にある研究機関として、その責務を果たし、材料科学の灯火を引き続き東北にかかげ、国際的活動を通じてその輝きを世界に届ける**ことを目指します。東北と日本の復興をめざすこれらの活動へ、関係者と市民の方々の御理解と御協力をお願いいたします。